

令和3年1月15日 沖底 網代港地方卸売市場

1月に入り、ハタハタが獲れ始め、網代では2度目の水揚げがありました。本日4隻の入港があり、ハタハタが約1,000箱獲れていました。サイズは体長14cm前後の2歳魚が主体でした。漁師さんに話をうかがうと昨年は1月はあまり獲れなかったのに比べると獲れ具合はますますのようです。



水産試験場では、ハタハタの精密測定を行い、成熟具合や胃内容物調査を行っています。今回調査した個体の大半の個体がヨコエビ類を豊富に食べていました。ハタハタ1尾の胃の中から数十匹のヨコエビ類が出てきます。それくらいハタハタはヨコエビが好きと言えます。このヨコエビ、科学的には学名が付けられており、*Themisto japonica* と呼びます。体長は5mm程度です（写真右下：黒バー3mm）。ハタハタが食べているこのヨコエビですが、鳥取県沖合では分布などの生態がよく分かっておらず、謎に包まれています。



そのほかアカガレイが約200箱獲れていました。アカガレイは12月に入りよく獲れるようになり、1月も好漁が続いています。お腹の中を見なくても大きな卵を持っているのが分かります。ハタハタはヨコエビを食べているのに対して、アカガレイはオキアミ類（小さなエビの形をした甲殻類）をよく食べています。ハタハタよりもアカガレイの方が若干深めの漁場となっており、分布水深が異なりますが、これほど明瞭に差があるのは不思議です。



そのほか松葉がに、ホッコクアカエビ、クロザコエビ、トゲザコエビ、マトウダイ、ノロゲンゲなどが獲れていました。

